

## 第21回福井県嶺南地域流域検討会の審議内容のご紹介

### ① 北川水系の河川整備について

北川水系の河川整備について、河川管理者より説明が行われました。

- 河内川ダムの水質予測について（補足説明）
- 江古川の整備内容について（補足説明）
- 北川水系河川整備計画（原案）の修正箇所について

#### ◎委員からの主な意見

##### ◆河内川ダムの水質予測について

1. 長期予測を行うのであれば、栄養塩のストックを考慮して、動物プランクトンや魚類まで考慮するべきではないか。

⇒【事務局】水質予測シミュレーションにつきましては、精度の向上を図るとともに、国の環境部会等に諮りながら、今後の検討を進めていきます。

##### ◆江古川の整備内容について

1. 余裕高や下流端水位についての考え方を整理する必要があるのではないか。

⇒【事務局】江古川の対策工については、今回は整備の方向性のみを示しており、今後、詳細な検討を行っていきたいと考えています。

2. H16年の台風23号による既往災害を安全度の目標とすることはないのか。

⇒【事務局】今後の検討において、その可能性はあると考えています。

##### ◆河川整備計画（原案）について

1. 国の策定する整備計画とタイトルが同じになってしまうのではないか。

⇒【事務局】「指定区間」もしくは「県管理区間」との表記を追加します。

2. 「・・・右岸側については計画高水位まで特殊堤による・・・（原案 P12 17 行目）」とあるが、これはどこの高水位なのか。

⇒【事務局】北川本川の計画高水位です。

3. 「・・・浸水を防ぐための築堤等を・・・（原案 P18 3 行目）」は、「・・・浸水を防ぎ、減じるための築堤等を・・・」に修正したほうが良いのではないか。

⇒【事務局】記載を修正したいと思います。

4. 洪水予報に関する記載は、行わないのか。

⇒【事務局】洪水予報は、水防法により整備された制度ですが、北川水系では北川本川の直轄管理区間が対象となっています。県の管理区間については、その対象とはなっていないため記載していません。

5. 治水経済調査の結果は、どのようになっているのか。

⇒【事務局】国と共同で検討を行っており、調整に時間がかかっています。次回以降に、報告を行いたいと考えています。

6. 魚道についての設置・改善等に関する記載は、本原案で結構であると思う。

7. 猛禽類をはじめ鳥類に関する記載は、北川の特徴が出ていると思う。

## ② 早瀬川水系の河川整備について

早瀬川水系の河川整備について、河川管理者より説明が行われました。

- 早瀬川水系における正常流量について

### ◎委員からの主な意見

#### ◆正常流量について

1. ハス川の水質目標は、C 類型でよいか？

⇒【事務局】目標ではなく、正常流量検討にあたっての目安として設定しています

2. 必要流量が流れている時の川のイメージが思い描けない。現地を見る限り、四季を通じて水量が少ないと感じる。正常流量が概ね確保されていると計算上は求められるているが、実際はサケやサクラマスにとって移動・産卵に必要な流量が不足しているのではないかと感じる。



#### ◆環境について

1. 三方五湖は海域、湖、山域が混在するそこで生息する動植物にとっては非常に貴重な環境。かつては湿地帯が広がっており、シギ・チドリ類がたくさん渡ってきていた。公園等の開発が進みそういった貴重な水域が、減ってきている。シギ・チドリも、環境を復元をすれば戻ってくるのではないかと期待している。保護でなく、工事で破壊したものを工事で復元するという考えが必要である。
2. サクラマスは昔はいたが、現在確認はできていない。サケは確認できている。護岸工事により、湖も川も水辺移行帯(水域から陸域に移行する部分)がなくなってきている。水辺移行帯は、魚類の産卵場所となり稚魚の成育環境となる。またそれらを餌とする大型の魚や鳥などもやってくるなど、生態学上 重要な場所。水辺移行帯の再生・復元が必要であり、湖岸に整備していかないと湖・川の生き物が貧相になるばかりである。
3. 三方五湖では自然再生の事業は取り組まれていないのか？  
⇒【事務局】護岸の整備にあたり、一部 なぎさ護岸という形で水際の植生に配慮してきています。
4. 最近では、水草の再生が確認できるし、アオコの発生もだいぶ少なくなってきており、かつての自然環境に戻ってきていると少し感じる。
5. 集落排水の普及状況、うなぎの生産量の推移を教えてください。  
⇒【事務局】確認し次回、回答する。